

製品名: Six5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17926**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	75kDa

抗原情報

遺伝子名	SIX5
別名	SIX5; DMAHP; Homeobox protein SIX5; DM locus-associated homeodomain protein; Sine oculis homeobox homolog 5
遺伝子 ID	147912.0
SwissProt ID	Q8N196
免疫原	抗血清はヒト SIX5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 201-250

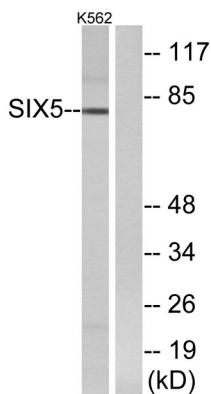
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、器官形成の調節に関与すると考えられるホメオドメイン含有転写因子である。この

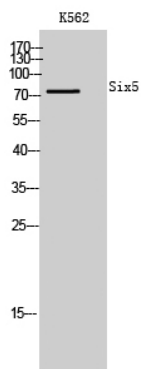
遺伝子は、筋強直性ジストロフィータンパク質キナーゼ遺伝子の下流に位置する。この遺伝子の変異は、鰓骨腎症候群 2 型の原因となる。[RefSeq 提供、2009 年 7 月];注意: 1~184 の領域は、ゲノム配列と EST から推定された。、発生段階: 発生第 4 週の初めに体節細胞の細胞質に検出され、第 4 週の終わりには核に蓄積する。発生第 6 週から第 8 週の間には肢芽細胞の核に検出される。、疾患: SIX5 の欠陥は、鰓骨腎症候群 2 型 (BOR2) の原因となる[MIM:610896]。BOR は常染色体優性遺伝疾患であり、耳介前窩、鰓瘻または嚢胞、涙管狭窄、難聴、外耳、中耳または内耳の構造的欠陥、および腎異形成が様々な組み合わせで発症します。関連する欠陥には、無力体型、細長い顔貌、狭窄口蓋、過蓋咬合、および近視などがあります。難聴は、モンディーニ型蝸牛欠損およびアブミ骨の固定に起因する可能性があります。BOR 症候群の浸透率が高いですが、表現度は非常に多様です。機能: 器官形成の調節に関与すると考えられている転写因子。網膜形成の決定および維持に関与している可能性があります。ATP1A1 の ARE 調節エレメントに存在する 5'-GGTGTCTCAG-3'モチーフに結合します。ミオジェニンプロモーターの MEF3 エレメント、および IGFBP5 プロモーターに存在する 5'-TCA[AG][AG]TTNC-3'モチーフに結合する (類似性による)。Dach タンパク質および Eya タンパク質との会合によって制御されると考えられており、EYA1、EYA2、EYA3 によって共活性化されると考えられる。、類似性: SIX/Sine oculis ホメオボックスファミリーに属する。、類似性: 1 つのホメオボックス DNA 結合ドメインを含む。、サブユニット: おそらく DNA 二量体に結合する。EYA3、そしておそらく EYA1 および EYA2 と相互作用する。組織特異性: 成体では発現するが、胎児の眼では発現しない。角膜上皮および内皮、水晶体上皮、毛様体上皮、網膜および強膜の細胞層に認められる。、

研究分野

画像データ



SIX5 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



Six5 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析

